

## 向陽 SSH NEWS 第8号



編集：向陽高校SSH事務局

## 第58回日本学生科学賞県審査

## 「イトタヌキモの生態学的研究」が県代表として全国審査へ

## 県教育委員会賞(県代表) 「イトタヌキモの生態学的研究」

11月8日(土)、第58回日本学生科学賞県審査の表彰式が、読売新聞和歌山支局で行われました。本校からは、昨年度の研究をまとめた論文を応募し、生物ゼミのイトタヌキモ研究グループ(現3年生 環境科学科)が受賞しました。

イトタヌキモ研究グループの「イトタヌキモの生態学的研究」は県代表として、全国審査に出場することとなりました。



水生生物であるイトタヌキモの生態についての地道な調査とデータの解析手法が評価されたようです。

表彰式では、県代表に選ばれたグループとして、本校からは小林蒼君が代表として挨拶を行いました。小林君は今回の審査していただいたことへの感謝の気持ちと全国審査に出場できた経験を将来の研究活動への糧としていくことなどを挨拶で述べました。

第3回きのくに科学オリンピック～科学の甲子園和歌山県予選～  
「赤いcanary」第3位入賞

11月3日、16日に「第3回きのくに科学オリンピック～科学の甲子園和歌山県予選～」がメディアアートホールで行われました。

向陽からは高校2年生と高校1年生からそれぞれ1チームの合計の2チームが参加し、他校の生徒と科学力について競い合いました。

11月3日は、筆記競技の部で物理・化学・生物・地学・数学・情報の知識をおよび知識の活用を問う問題でした。

11月16日は、実験競技と総合競技の部が行われました。実験競技の部では、用意されたバネ等の機材を用いた実験値のデータをもとに与えられた課題を解いていく競技でした。総合競技の部では、その場で与えられた材料(モーター、プラ板等)だけで小型ホバークラフトを制限時間1時間で製作し5mの走行時間を競い合いました。

本校から参加した生徒達は、いろいろな課題に頭を悩ませながら取り組んでいました。

総合競技では、出場選手全員が見守る中、会場の舞台上のレーンで作成したホバークラフトを走行させました。出場全17チーム中、完走したのが4チームのみとかなり困難な課題でしたが、向陽から出場の2チームは制限時間内に完走し、会場から喝采を受けました。

総合点で残念ながら県代表は逃しましたが、本校から出場の高校2年生のチーム「赤いcanary」が第3位に入賞しました。



実験・総合競技での活動風景



総合競技・ホバークラフト走行



## SS探究科学II(2年生環境科学科)

## 課題研究校内中間発表会

10月28日、11月4日、11月11日の3日間、「SS探究科学II」の課題研究の中間発表会が行われました。物理ゼミ(2テーマ)、化学ゼミ(4テーマ)、生物ゼミ(7テーマ)、数学ゼミ(7テーマ)、環境ゼミ(1テーマ)、の5つのゼミの合計21テーマの研究発表がありました。



発表では、各々の研究内容についてパワーポイントを使ってプレゼンし、研究の動機やその研究の基本原則や実験結果をもとにした考察などを分かりやすく説明していました。また各発表後に行われる質疑応答では、積極的に質問が出され、研究グループのメンバーが質問に熱心に答える姿が見られました。

